

株式会社ミュージックバード

第71回番組審議会 議事録

1. 開催日時 平成28年12月6日(火) 15時00分～16時30分

2. 開催場所 TOKYO FM 10階 大会議室

3. 出席者

<番組審議会委員>

矢内 廣 委員長
松尾 修吾 副委員長
福本 ゆみ 委員
村井 裕弥 委員

欠席 佐野 光徳 委員
中西 健夫 委員

<ミュージックバード>

| | |
|------------------|--------|
| 代表取締役社長 | 雄谷 英一 |
| 常務取締役 | 大橋 明夫 |
| 取締役技師長 | 土屋 充央 |
| 技術部顧問 | 江森 武男 |
| コンテンツ事業部グループリーダー | 岩崎 育郎 |
| コンテンツ事業部プロデューサー | 田中 美登里 |

4. 議事内容

- (1) 放送活動のご報告
- (2) 番組試聴
- (3) その他の活動

5. 配布資料

- (1) 第71回番組審議会資料
- (2) 第70回番組審議会議事録

(1) 主な放送活動報告

◇「24ビット放送」開始

●さらにリアルな音へ～2016年10月より24bit放送を開始！

現在、放送ではサンプリング周波数48kHz、量子化ビット数16bitでの放送が主流となっていますが、ハイレゾなど高音質を求める音楽ファンのニーズが高まる中、よりハイレゾ音源に近い高音質放送を実現するため、当社では10月より一部の番組で量子化ビット数を24bitの楽曲の放送を開始致しました。

量子化ビット数が16bitから24bitに増加すると、音の強弱抑揚の表現が256倍精密になり、量子化誤差が減るため、生の音に近づきます。そのため、音がよりナチュラルに繊細に表現でき、低音から高音までわずかな強弱や響きにおいて再現性が向上します。

<10月スタート>

- ・「ハイレゾ新譜 by e-onkyo music」 THE AUDIO (124ch)
- ・「トッパンホール・トライアングル」 THE CLASSIC (121ch)

<11月スタート>

- ・「WORLD LIVE SELECTION」 THE CLASSIC (121ch)

<2017年1月スタート>

- ・「ハイレゾ・クラシック by e-onkyo music」 THE CLASSIC (121ch)

●出演者：原典子（はら・のりこ）

音楽に関する雑誌や本の編集者・ライター。上智大学文学部新聞学科卒業。
音楽之友社『レコード芸術』編集部、音楽出版社『CDジャーナル』副編集長を経て、現在はフリーランス。『intoxicate』『CDジャーナル』など音楽雑誌への執筆のほか、坂本龍一監修の音楽全集『commons: schola』の編集を担当。

<MB事務局>

- ・10月より全チャンネルの24ビット化を実施し、24ビット（ハイレゾ）音源を使用した新番組、契約者からの評価、新型のハイエンドチューナーの評判、売れ行きが事務局より説明された。

<委員>

- ・従来のチューナーで聴いているユーザーにも24ビット化による高音質化の恩恵はあるのか？

<MB事務局>

- ・16ビット音源のCDを使用しても放送時点で24ビットにアップされて放送している為、従来の16ビットでの放送に比べ、音質が良くなっていると契約者からの反響があった。
夏に衛星がJ SAT 2Aから2Bとなり、性能が向上している為、受信感度も大幅に上がったとの声も多く、降雨減衰の障害も減ったとの声もある。相乗効果として全体に音質が向上していると認識している。

(2) 番組試聴

<タイトル>『ホールが生んだ名録音～森と湖のホール「相模湖交流センター」編』

<出演>山之内正

<放送日時>毎週金曜 11時～12時/再放送 22時～23時（隔週更新）

※放送期間 2016年9月30日～2017年3月24日（全14回予定）

<内容>森と湖に囲まれたホール『相模湖交流センター』は美しい木製の天井や内壁、床と音響反射板と残響可変幕も設備され、「音響効果が抜群」と国内外のトップアーティストから称賛されています。ここで収録されたCD

やハイレゾ音源、コンサートのライブ収録音源等を紹介するこの番組の出演は同ホールを使った演奏の収録にも数多く立ち会ってきたオーディオ評論家・山之内正。

初回のゲストはオクタヴィア・レコードの代表、江崎友淑氏。もともとは管楽器奏者として活躍していた江崎氏のこれまでの軌跡とともに、いい演奏、録音とは何かを伺います。

鈴木理恵子によるモーツァルトのヴァイオリン・ソナタ K305 と千々岩英一のフランクのヴァイオリン・ソナタの音色の違いや、これまで江崎氏が関わってきた思い出の録音なども含めて放送。

<MB事務局>

- ・国内外のアーティストから音の良いホールとして評判の同ホール（キャパ456席）で収録した音楽をオーディオchで紹介する番組として14回にわたり放送した。

<委員>

- ・電源が良いホールとも言われている。ノイズの少ない電源の質は近年、音質にこだわるレコード会社やアーティスト、オーディオファンから注目されている。

<MB事務局>

- ・レコーディング中の同ホールに伺ったが、一聴で響きの良いホールであると感じた。

<委員>

- ・クラシックCDではホールでLIVE録音という方法で作られていることが多い。このホールは首都圏からの近さ、音の良さ、県立での使用料の安さが相まって人気があるようだ。

(3) その他の活動

① 123ch「KAYO&ENKA」、110ch「演歌ヒッツ」の1月改編

- ・123ch「KAYO&ENKA」 → 「THE 青春歌謡」

“青春”をキーワードに、歌謡演歌&J-POP 専門のチャンネル「THE 青春歌謡」として再出発します。近年脚光を浴びる「昭和歌謡」に加え、GS、フォーク&ニューミュージック、アイドル歌謡、シティ・ポップス&ロックから本格演歌まで・・・日本の名曲を最良の音質でお届けします。

- ・110ch「演歌ヒッツ」 → 「THE 演歌」

大御所歌手から話題の新人まで、24時間ノンストップで演歌を楽しめるチャンネル。1月からは、歌い継がれる名曲と、最新のヒット曲とを時間帯を分けてお送りする演歌総合チャンネル「THE 演歌」として新たにスタート。

<MB事務局>

- ・契約者アンケートの結果、「演歌」については解説などのトークはあまり必要ではないという意見もあり、ノントークの110chに集約した。むしろ聴くと言うよりも歌いたい(カラオケ)ニーズが多いようだ。
- ・当社としてはこれまで手が付けられていなかった「歌謡曲」にフォーカスした新チャンネルを設定した。

② 4月以降の施策検討

- ・一部チャンネルのビットレート変更

101ch～126chの中で一部の主要チャンネルのビットレートを256bps→320Kbpsとし、より高音質を実現。

- ・24ビット番組の拡充

122ch「THE JAZZ」を中心に24ビット番組をスタート予定。

- ・コミコミライトプラン(仮題)の導入

これまで月額800円が必要だったスタンダードチューナー「CDT-3AFD」、パラボラアンテナのレンタルプラン(50chパック以上に適用)に加え、標準設置工事、加入料まで、すべて初期費用を無料化したレンタルプラン「コミコミライト」(3年契約・26chパック限定)を2017年4月から導入するべく検討中。

<MB事務局>

- ・各chのビットレートを変更する上では、全体の帯域に変更がでないよう、ビットレートをアップするchとダウンするchを整理して実施する。
- ・当社としては音質のよさ、オーディオ的な価値を重要視するリスナーに向けて放送しているが、その良さをできるだけ加入のハードルを下げる必要があると考え、新レンタルプランを来春から実施する予定である。

以上